

World News

ロケット関連ニュース

1. ドニエプルロケット、7回目の打上げに失敗、18機の小型衛星失う

2006年7月27日の夜、ドニエプルロケットでの7回目の打上げが行われた。打上げ後、間もなくロケット第一段階モーターの緊急停止が発生、打上げ機はバイコヌールロケット発射基地でサイロから吹き飛んで打上げ失敗に終わった。搭載していた18機の小型衛星はロケットと共に失われた。搭載されていた衛星は、ベラルーシの最初の衛星「Beika」、ロシアバウマン州立技術大学の学生によって開発され「Baumanets」衛星、イタリアのたくさんの学生の衛星、米国、ノルウェー、日大が開発した超小型衛星10cmの「SEEDS」、及び韓国の衛星が含まれていた。

ドニエプルロケット「Dnepr LV」の落下地点は打上げサイトから150km離れたところであった。犠牲者は無かった。ロケットの落下地点は無人領域で地面に散乱していた。連邦政府の宇宙局長官は「Dnepr LVは標準ロケットで、最も信頼できるものの1つでした。残念な事に、このような事故が起こり、それが私たちの任務実現の間に起こったのが本当に残念です。私たちは、確りと、この事故を乗り越える必要があります」とコメントした。

Dnepr衛星打ち上げロケットは大陸間弾道ミサイル「SS-18 ICBM」を衛星打上げ用ロケットに改良したものである。昨年8月に打上げられた光通信実験衛星「きらり」

「OICETS」と小型衛星「れいめい」もこのドニエプルで打上げられた。



Dnepr - 1 LVはSS-18液体燃料型ICBMで3段式ロケットである。ロケットの1段目及び2段目は標準SS-18で変更無しに使用されている。Dnepr-1 LV3段目は標準SS-18から改良されている。

打上げ重量：211t

LV直径：3m

LV全長：34m

軌道投入精度

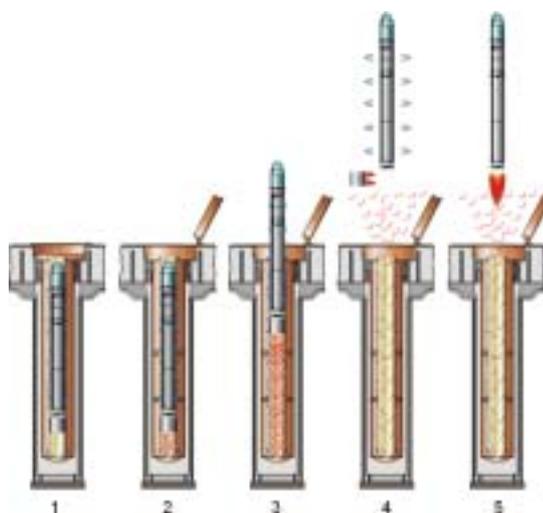
- 軌道高度：±4.0km
- 傾斜角：±0.04度
- 昇交点 赤経：±0.05度

軌道傾斜角：50.5, 64.5, 87.3, 98

飛翔信頼度：0.97

< ISC Kosmotras 提供 >

Dnepr LVのサイロからの打上げ方法



< ISC Kosmotras 提供 >

-ISC Kosmotras 2006.7.27 プレスリリース記事-

2. Ariespace 社はベトナムの最初の通信放送衛星「VINASAT-1」の打上契約を締結した。

Ariespace 社の Jean-Yves Le Gall CEO は、同社が 2008 年にベトナム通信郵政公社(VNPT)の VINASAT-1 衛星打上げ契約をしたと発表した。VINASAT-1 衛星はロッキード・マーチン(LMCSS)によって製造される予定である。同衛星は、2008 年の前半に Ariane5 でギアナ宇宙センターから打上げられる。Ariespace 社として VINASAT-1 は 1980 年 3 月の同社設立から 275 番目の契約であり、アジア太平洋地域の衛星契約としては 53 番目の衛星契約となる。VINASAT-1 通信放送衛星は LMCSS のニュータウン(ペンシルバニア)の工場で組立てられる。衛星は A2100 衛星バスを使用し、打上げ時重量は約 2,600kg である。東経 132 度の静止軌道に配置される。衛星寿命は 15 年以上で、搭載通信ペイロードは、20 本の C と Ku 波帯トランスポンダーを搭載、ラジオ、テレビ、および電話サービスをベトナムとアジア太平洋地域のすべてに提供する予定である。

-Ariespace 2006.6.20 プレスリリース記事

3. 太陽観測衛星 SOLAR-B/M-V-7 の打上げ 9 月 23 日に決定

M-V-7 号機による、太陽観測衛星 SOLAR-B の打上げ概要が、宇宙航空研究開発機構から公表された。打上げは 2006 年 9 月 23 日(土)に決まった。M-V-7 号機は、質量約 900kg の SOLAR-B を近地点高度約 280km、遠地点高度約 600km、軌道傾斜角約 98 度に

投入する計画である。また、M-V-7 号機には、バランスウェイトを有効活用して、2 つのサブペイロードが搭載される。SOLAR-B の分離後、サブペイロードである小型衛星バス部機能実証超小型衛星(HIT-SAT)を、打上げ後約 830 秒後には、ソーラ電力セイル実証超小型衛星(SSSAT)を同約 990 秒後に分離する計画である。



SOLAR-B 衛星 JAXA 提供

実験計画概要:

実験目的: 太陽観測衛星 SOLAR-B の打上げ実験

投入軌道: 太陽同期極軌道

ロケット: M-V-7 全長 31 m、
全質量 140 ton、
衛星質量 0.9 ton

実験場所: 独立行政法人
宇宙航空研究開発機構
内之浦宇宙空間観測所

実験期間: 実験予定日:
2006 年 9 月 23 日(土)

実験時間帯: 6 時 00 分 ~ 7 時 00 分(JST)

実験予備期間: 2006 年 9 月 24 日(日) ~
9 月 30 日(土)

-JAXA 2006.7.27 プレスリリース記事

衛星関連ニュース

1. Space Systems/Loral 社は ECHOSTAR と衛星製造契約をした事を発表

Space Systems/Loral 社(SS/L)は、6月30日、EchoStar 社と 1300 シリーズの衛星製造契約を締結した事を発表した。

この新しい契約は今年これまでに SS/L が獲得した 4 つの衛星契約の 1 つである。EchoStar 社(ナスダック: DISH)は、過去 5 年間に急速に増加している米国のプロバイダーの DISH Network を通して 1220 万人以上の衛星テレビ顧客に、最新のデジタル・テレビサービスを供給している。DISH Network は数百のビデオ、音声チャンネル、Interactive テレビ、HDTV、スポーツ、および国際的なプログラミングを 24 時間サービスで提供している。

-SS/L 2006.6.30 プレスリリース記事

2. LOCKHEED MARTIN社は 5 機目の最新の GPS 衛星を完成した事を発表

ロッキード・マーティン社は、同社が米空軍のために開発している一連の8機の最新の全地球測位システム(GPS) IIR衛星の5機目の衛星を完成したと発表しました。衛星は、今まで開発された最も技術的に高度なGPS衛星であり、米軍と民間ユーザのための高精度のナビゲーション性能を世界中に提供する事が出来る。GPS IIR-Mとして知られている最新のプログラムは、クリフトン(ニュージャージー州)のITTとヴァレー・フォージ(ペンシルベニア州)で開発され、GPSユーザのためにさまざまな拡張機能を提供する。改良されたナビゲーション能

力は民間用の2つの新しい信号や、米軍用の高度暗号化やアンティジャミングの能力を提供する。



GPS R 衛星 Lockheed Martin 提供

完成した衛星は、空軍に納入後、格納され、必要な時期に打上げられ運用される。チームは現在、2機目の R-Mミッションをケープ・カナベラル空軍基地(フロリダ州)から2006年9月14日に打上げる準備をしている。GPS IIR-15(M)に指定された衛星は、現在運用中の29衛星群の軌道に投入され、昨年GPSユーザに対して運用を宣言した最初のIIR衛星と他の12機の運用中のBlock IIR衛星と衛星群を構成する予定である。GPSは軍のために状況認識と精密兵器誘導のような基本的なサービスを提供する。また、それは、精度位置とタイミング情報で航空管制からインターネットまでさまざま

な民間、科学、商業の機能をサポートする情報リソースとなる。空軍の第2衛星運用シュリーファー空軍基地(コロラド州)(2SOPS)が民間用、軍用のユーザに対してGPS衛星群を管理、運用する。

また、ロッキード・マーチンはGPS Block IIIとして知られている次世代全地球測位システムを構築する検討を行っている。

-Lockheed Martin 2006.7.18 プレスリリース記事

3. ジェイサット社は通信衛星「JCSAT-10」の打上げを8月12日と発表

ジェイサット株式会社(JSAT)は、JCSAT-10(JCSAT-3A)を2006年8月12日7時14分52秒(日本時間)南米フランス領ギアナ、クールー基地より打ち上げられると発表した。



© Lockheed Martin

JCSAT-10 イメージ図 JSAT 提供

JCSAT-10は、東経128度で運用しているJCSAT-3号機の後継機として打ち上げられる。打上げ後東経128度の静止軌道から運用される予定である。軌道上試験を完了後運用時にはJCSAT-3Aとなる。現在運用中のJCSAT-3号機は、国内外の通信利用はもとより、日本で最初のCSデジタル多チャンネル放送「スカイパーフェクTV!」を通

じて、様々なコンテンツを配信し、幅広く利用されている。

打ち上げ予定日時：

2006年8月12日(土)

07時14分52秒(JMT)

打ち上げ場所：

フランス領ギアナ・クールー基地

打ち上げロケット Ariane 5

JCSAT-10 通信衛星

- (1) 衛星バス型式 A2100AX
(ロッキード・マーティン社)
- (2) 中継器本数
固定衛星通信サービス用
Kuバンド × 30本
固定衛星通信サービス用：
Cバンド × 12本
- (3) カバーエリア：
日本、東アジア、東南アジア、
ハワイ、オセアニア
- (4) 軌道位置 東経128度で運用予定

-JSAT 2006.7.26 プレスリリース記事-